

美園中だより



さいたま市立美園中学校

TEL 048-878-0019

<http://misono-j.saitama-city.ed.jp/>

第8号 令和7年12月 1日

学校教育目標

『知性・自律・健全』

～世界へ・未来へ～

☆知性「知を磨き」

☆自律「自らを律し」

☆健全「心身を鍛える」

ねらいとする生徒の姿を求めて

校長 坂口 洋美

紅葉が美しい時期になりました。「秋の日はつるべ落とし」とは言いましたので、このところは日没があつという間ですので、家まで遠い生徒は無事に帰りついたかなと日々心配になります。

11月25日(火)、3年生は赤ちゃん・幼児触れ合い体験を行いました。これは技術・家庭科の家庭分野で保育の学習としてさいたま市全体で行っている取組です。平成24年に「生命尊重教育」の一環として位置づけられ、赤ちゃんや幼児と触れ合う体験をしたり、親が愛情をもって子どもに接する姿に触れたりすることを通して、赤ちゃんや幼児との関わり方や生命の大切さを学ぶことを目的として始まりました。今回の実施後の生徒の感想では「最初は(園児が)緊張していたけれど、自分が目線の高さを下げたり、リアクションを大きくしたりすると、最後には自分から話してくれました」「今回の体験で4歳の子と今の自分の成長や発達の違いを知りました」「園児にとって身近な人とのアタッチメントはすごく大切なと実感しました」など、この事業の意図をしっかりと酌んだ感想が書かれて



<自然に目線の高さを合わせて接しています>

いました。本校は、園児に来てもらうという形で行っていますが、中学校によっては、保育園や幼稚園を訪問したり、ボランティア親子に来てもらったりして行います。どの形で行うかは近隣に保育施設があるかなども関わってきますが、生徒にどんなことを考えて欲しいかでも異なってきます。ボランティア親子を招く場合は、母親がどんな思いで出産・育児に臨んでいるかが、母親との対話を通じて感じることができます。園児と関わる場合は、年齢による発達の違いや遊び方の違いを実感します。どうすれば生徒に、子どもの発達や子どもにとっての遊びの意義、命の尊さを感じ取ってもらうか、内容も試行錯誤して年々改良しながら取り組んでいます。家庭科の授業に限らず、教員は全ての授業でねらいとする生徒の姿を念頭に置き、授業を組み立て、生徒の実態に応じた授業を工夫して行っています。本校でも2学期は、教科の枠を超えてお互いの授業を見合う取組を通して、さらなる授業改善を狙っています。残すは「師も走る」月となってしまいましたが、私も一つでも多くの授業を見たいと思っております。